

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 2 5 年度病害虫発生予報第 4 号について  
平成 2 5 年度病害虫発生予報第 4 号を発表したので送付します。

## 平成 2 5 年度病害虫発生予報第 4 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	本文の記 載ページ
普通期水稲	1 葉いもち	多	2
	2 紋枯病	並	2
	3 ツマグロヨコバイ	並	2
	4 セジロウンカ	並	2
	5 トビイロウンカ	やや多	2
	6 ヒメトビウンカ	やや多	3
	7 コブノメイガ	並	3
野菜類全般	1 アブラムシ類	やや少	3
	2 ハスモンヨトウ等のチョウ目（鱗翅目）害虫	並	3
果樹全般	1 果樹カメムシ類	-	3
カンキツ (露地栽培)	1 かいよう病	やや少	4
	2 黒点病	並	4
	3 ミカンハダニ	やや多	4
	4 チャノキイロアザミウマ	並	5
茶	1 炭疽病	並	5
	2 もち病	並	5
	3 輪斑病	やや多	5
	4 チャノコカクモンハマキ	並	5
	5 チャハマキ	並	6
	6 チャノホソガ	並	6
	7 カンザワハダニ	やや少	7
	8 チャノキイロアザミウマ	並	7
	9 チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	7
	10クワシロカイガラムシ	並	7

は注意報、 は防除情報を発表

### 作物の生育状況（7月中旬）

普通期水稲は分けつ期、うんしゅうみかんは果実肥大期、茶は三番茶の摘採前～摘採始めであった。

### 向こう1か月の気象予報

天気は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並の確率50%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%と予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台7月19日発表)

## 発生予報の根拠および防除対策

普通期水稲

### 1 葉いもち (多)

平成25年度注意報第2号(7月25日発表)参照

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の発生面積率25.0%(平成5.7%)、発病株率5.5%(平成0.9%)はいずれも平成より多である。
- (2) 天気は平成と同様に晴れの日が多く、気温は平成並の確率50%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%と予想されている。

[防除上の注意]

- (1) 箱施薬剤を施用したほ場であっても、薬剤の効果が切れると発病することがあるので注意し、分けつ期までに発生が見られる場合には早めの追加防除を行う。
- (2) 穂いもちについては、粉剤または液剤による穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。

### 2 紋枯病 (並)

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の巡回調査では発生未確認である。  
(平成:発生面積率0.2%、発病株率0.0%)
- (2) 天気は平成と同様に晴れの日が多く、気温は平成並の確率50%、降水量は多い確率40%、日照時間は少ない確率40%と予想されている。

[防除上の注意]

- (1) イネの抵抗性が低下する幼穂形成期から穂ばらみ期にかけて上位葉鞘に進展するので、防除は穂ばらみ期に行い、その後も上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の防除を実施する。
- (2) 株が成長して風通しが悪くなると急激に病勢が進展するので、前年多発したほ場では十分注意する。

### 3 ツマグロヨコバイ (並)

- (1) 7月中旬の発生面積率35.0%(平成32.4%)、20回すくい取り虫数1.0頭(平成1.4頭)はいずれも平成並である。

[防除上の注意]

- (1) 萎縮病、黄萎病を媒介するので注意する。

### 4 セジロウンカ (並)

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の発生面積率65.0%(平成77.0%)は平成よりやや少、20回すくい取り虫数18.5頭(平成36.5頭)は平成並である。

[防除上の注意]

- (1) 幼穂形成期頃に多発生すると、吸汁による生育抑制、下位茎葉の黄変枯死、出穂の遅れが生じるので、発生状況を見て若齢幼虫期に防除する。
- (2) イネ南方黒すじ萎縮病を媒介するので注意する。

### 5 トビイロウンカ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の発生面積率12.5%(平成5.1%)は平成よりやや多、株当たり虫数0.01頭(平成0.00頭)は平成並である。
- (2) 予察灯調査では、6月第4半旬から断続的な飛来が認められている。

[防除上の注意]

- (1) 少ない飛来量でもその後の増殖率が高く、坪枯れ等大きな被害が生じるため、長

期残効型の箱施薬を行っている場合でもほ場での発生に注意する。(第1世代成虫における要防除密度は、短翅型雌成虫が株当たり0.2頭)

- (2) 向こう1か月の気温は平年並と予想されており、本虫の増殖が速まり生息密度が高まる恐れがあるので注意が必要である。
- (3) 6月27日に飛来したトビイロウンカの第2世代幼虫の防除適期は8月2~3半旬と予想されるので、発生状況を確認して防除を行う。

## 6 ヒメトビウンカ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の発生面積率62.5%(平年33.4%)は平年より多、20回すくい取り虫数1.8頭(平年1.3頭)は平年並である。

[防除上の注意]

- (1) 本虫は縞葉枯病を媒介し、近年九州管内において、その保毒虫率が高まっている。

## 7 コブノメイガ (並)

[予報の根拠]

- (1) 7月中旬の発生面積率20.0%(平年17.8%)は平年よりやや多、被害葉率0.1%(平年0.4%)は平年並である。

- (2) 県内3か所(都城市・えびの市・宮崎市佐土原町)のライトトラップ調査では、6月6半旬から誘殺されている。

[防除上の注意]

- (1) 防除適期は、粒剤を使用する場合は発蛾最盛期、粉剤及び水和剤等を使用する場合は幼虫ふ化期(発蛾最盛期の7日後)であるので、ほ場での発生状況を把握し適期防除に努める。
- (2) フェロモントラップ(コントラップ)における主要飛来日は6月28日であった。発蛾最盛期は7月5~6半旬と予想される。

### 野菜類全般

## 1 アブラムシ類 (やや少)

[予報の根拠]

- (1) 黄色水盤トラップ(宮崎市佐土原町)による誘殺数は平年より少ない誘殺数で推移している。

[防除上の注意]

- (1) 作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

## 2 ハスモンヨトウ等のチョウ目(鱗翅目)害虫 (並)

[予報の根拠]

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップ(宮崎市佐土原町、国富町、都城市、西都市)での誘殺数は、6月下旬に多くなっている。

- (2) 西都市におけるタバコガ、オオタバコガのフェロモントラップ調査では、タバコガは平年並、オオタバコガは平年より少ない誘殺数である。

[防除上の注意]

- (1) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

### 果樹全般

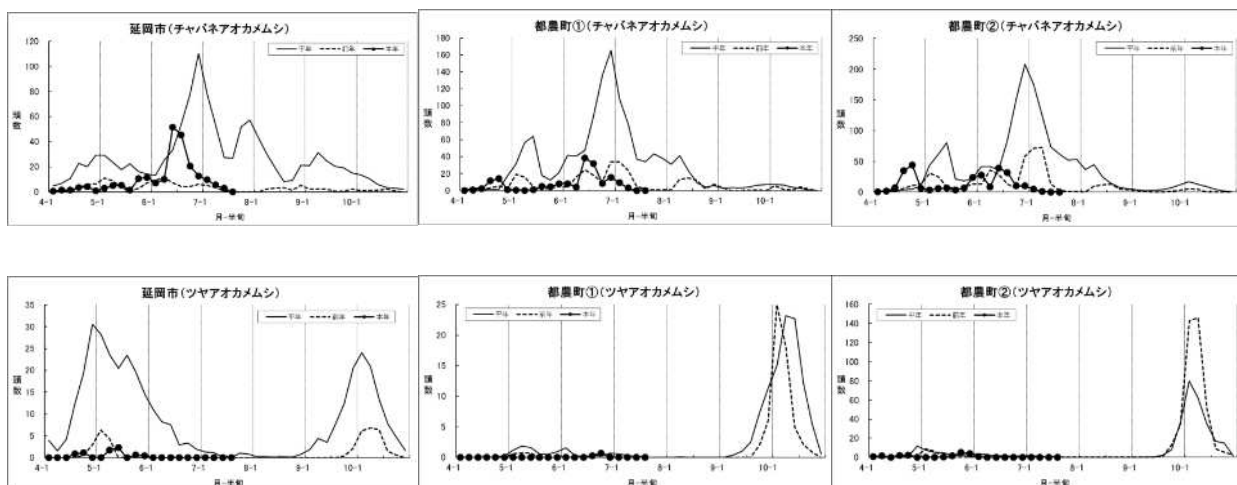
## 1 果樹カメムシ類

[予報の根拠]

- (1) 県内3か所(延岡、都農、都農)に設置したフェロモントラップ調査では、平年より少ない誘殺数で推移している。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- ( 2 ) 台風が襲来した場合は、カメムシが餌としているヒノキやスギの毬果が落果し、果樹園に大量飛来するおそれがあるので、注意が必要である。



カンキツ ( 露地栽培 )

**1 かいよう病 ( やや少 )**

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の巡回調査における春葉調査では、発生面積率5.6% ( 平年26.1% )、発病度0.08 ( 平年0.57 ) はいずれも平年よりやや少である。
- ( 2 ) 果実調査では、発生面積率0% ( 平年16.1% )、発病果率0.1% ( 平年1.1% ) はいずれも平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 発病した枝葉は、伝染源となるので可能な限り取り除き、園外に持ち出し適切に処理する。
- ( 2 ) 台風の襲来が予想される時は、事前に薬剤散布を行う。強風による枝葉の損傷を少なくするため防風垣等を整備する。
- ( 3 ) ミカンハモグリガの被害は、格好の病原菌侵入口となるので、夏秋梢の発生の多いほ場ではハモグリガの防除を徹底する。

**2 黒点病 ( 並 )**

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の果実調査では、発生面積率22.3% ( 平年20.9% )、発病果率6.4% ( 平年6.1% ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 感染源となる枯枝は、可能な限り取り除く。
- ( 2 ) 剪定枝をそのままほ場周辺に放置していると激発するおそれがあるので、埋設する等適切に処理する。
- ( 3 ) 防除間隔の目安は積算降水量300mmで、降水量が少ない場合でも1か月後には次の防除が必要である。

**3 ミカンハダニ ( やや多 )**

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の発生面積率38.9% ( 平年26.5% ) は平年よりやや多、寄生葉率3.1% ( 平年4.0% ) は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 高温・乾燥状態で生息密度が高まる。
- ( 2 ) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%または1葉当たり虫数0.5~1頭を目安に防除を行う。

#### 4 チャノキイロアザミウマ (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の巡回調査では未確認である。  
( 平年：発生面積率6.0%、寄生果率0.3% )

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 密度が高くなると防除が困難になるので、1果当たり虫数0.3頭を目安に防除を行う。
- ( 2 ) 防風垣にイヌマキが植栽されているほ場では、その新芽にも寄生するので防除に努める。

茶

#### 1 炭疽病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の巡回調査における発生面積率58.8% ( 平年61.2% ) は平年並、 $m^2$ 当り病葉数8.0葉 ( 平年12.6葉 ) は平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 新芽の生育期に雨が多いと発生しやすい。防除は秋芽の萌芽~1葉期に予防効果のある剤を散布し、その後、2~3葉期に治療効果のある剤を散布する。

#### 2 もち病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の発生面積率5.9% ( 平年12.4% )、 $m^2$ 当り病葉数0.1葉 ( 平年2.3葉 ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 秋芽に発病すると次年度の新芽への影響が大きいため、防除は秋芽の萌芽~1葉期に実施し、秋芽への感染を防ぐ。
- ( 2 ) 防除適期が炭疽病と同じであるため同時に防除する。

#### 3 輪斑病 (やや多)

平成25年度病害虫防除情報第6号 ( 7月25日発表 ) 参照

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の発生面積率17.6% ( 平年8.9% )、 $m^2$ 当り病葉数0.3葉 ( 平年0.1葉 ) はいずれも平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 摘採・整枝直後の傷口から感染するので、作業後なるべく早く防除を行う。
- ( 2 ) 多発園では新梢枯死症の発生が懸念されるので、秋芽開葉期にも防除を行う。

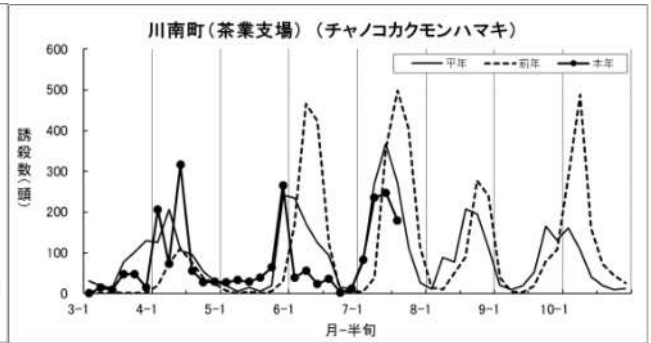
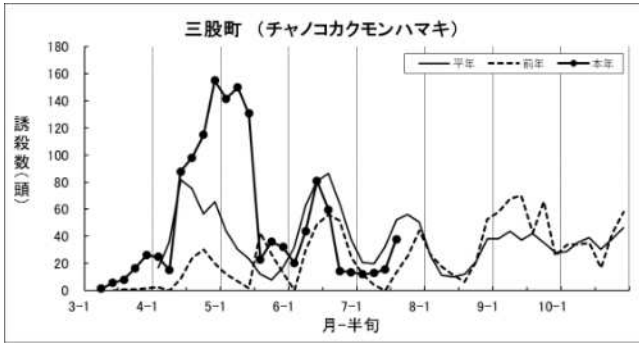
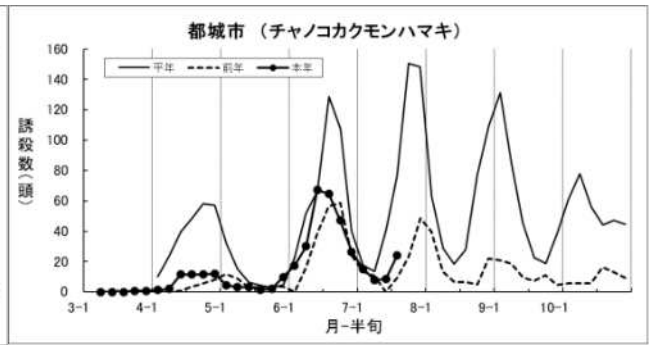
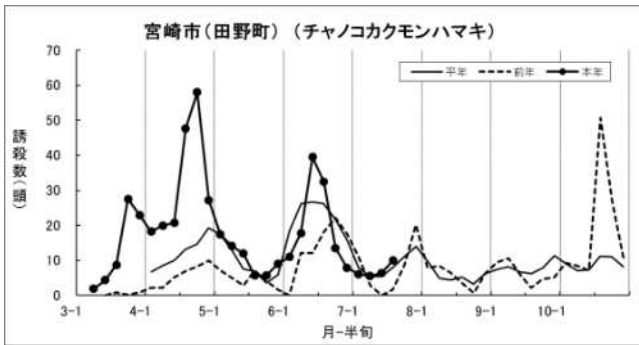
#### 3 チャノコカクモンハマキ (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の巡回調査では、発生未確認。  
( 平年：発生面積4.1%、 $m^2$ 当り虫数0.1頭 )

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 県内4か所 ( 宮崎市田野町、都城市、三股町、川南町 ) に設置しているフェロモントラップ調査では、次回の発蛾最盛期は、7月下旬~8月始めと予想される。
- ( 2 ) 発蛾最盛期の7~10日後が防除適期である。



#### 4 チャハマキ (並)

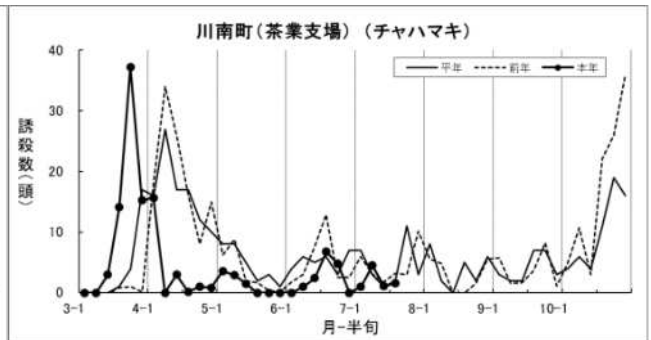
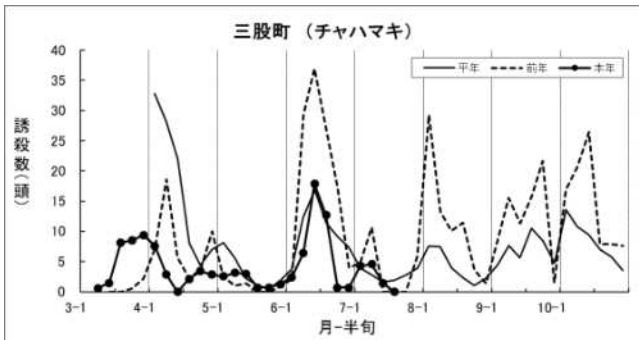
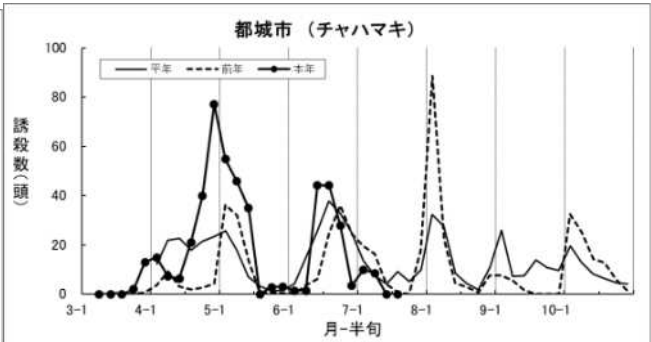
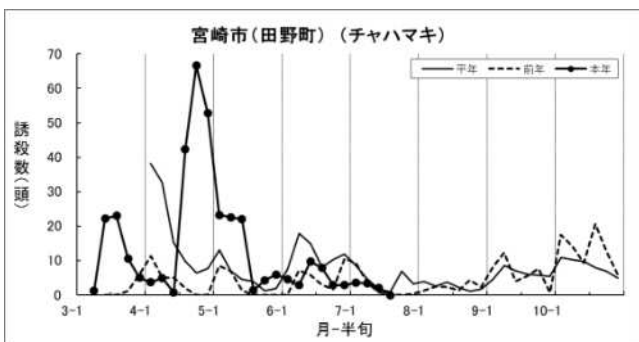
[ 予報の根拠 ]

( 1 ) 7月中旬の発生面積5.9% ( 平年7.7% )、 $m^2$ 当たり虫数0.1頭 ( 平年0.3頭 ) はいずれも平年並である。

[ 防除上の注意 ]

( 1 ) フェロモントラップ調査では、次回の発蛾最盛期は7月下旬～8月上旬と予想される。

( 2 ) 発蛾最盛期の7～10日後が防除適期である。



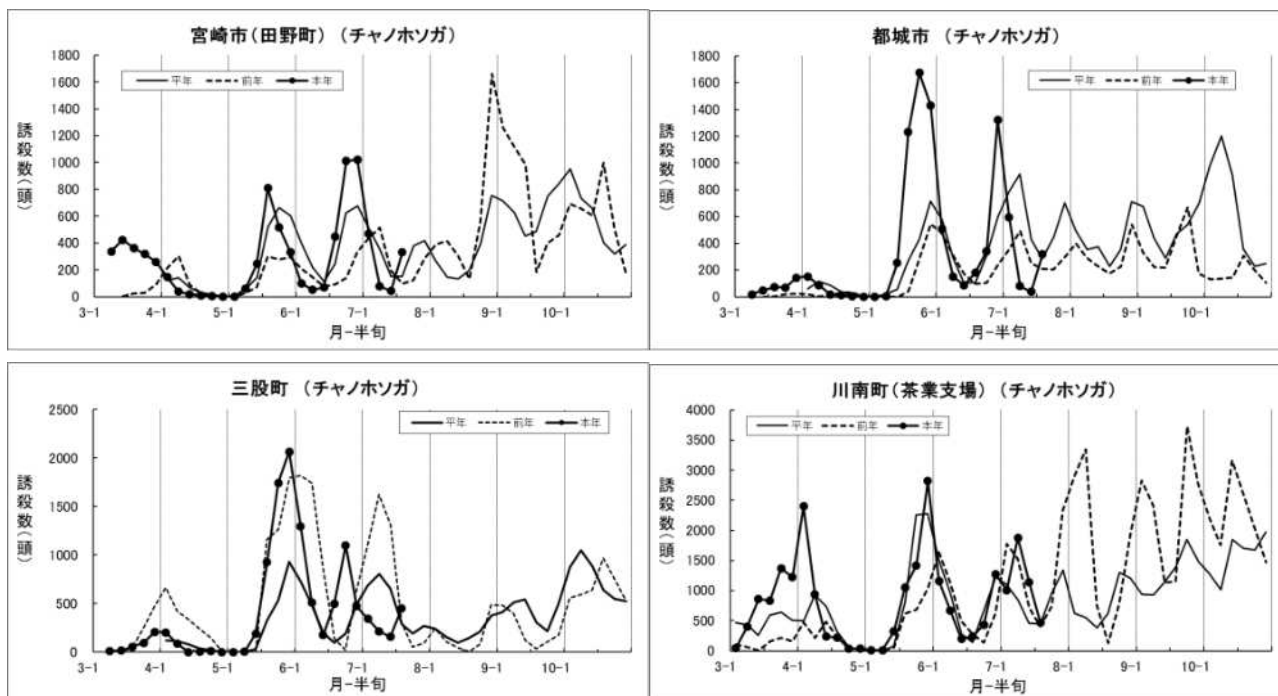
#### 5 チャノホソガ (並)

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の発生面積35.3% ( 平年29.9% ) は平年よりやや多、m<sup>2</sup>当たり巻葉数0.4葉 ( 平年0.7葉 ) は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) フェロモントラップ調査では、次の発蛾最盛期は7月下旬～8月上旬と考えられる。  
( 2 ) 発蛾最盛期の10日後が防除適期である。



## 6 カンザワハダニ ( やや少 )

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の巡回調査では、発生未確認。  
( 平年：発生面積率15.0%、寄生葉率1.3% )

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤の口 - テ - ション散布を実施する。

## 7 チャノキイロアザミウマ ( 並 )

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の見取り調査による発生面積率70.6% ( 平年57.3% ) は平年よりやや多、寄生葉率3.9% ( 平年4.5% ) は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) この時期は卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくく防除効果があがらないので、残効の長い薬剤が1週間間隔での連続散布を行う。

## 8 チャノミドリヒメヨコバイ ( やや多 )

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の見取り調査による発生面積率58.8% ( 平年49.1% ) は平年よりやや多、寄生葉率2.4% ( 平年4.6% ) は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) チャノキイロアザミウマとの同時防除とする。

## 9 クワシロカイガラムシ ( 並 )

[ 予報の根拠 ]

- ( 1 ) 7月中旬の発生面積率11.8% ( 平年16.4% ) は平年並、寄生株率0.1% ( 平年4.0% ) は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- ( 1 ) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期の2～3日であるので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- ( 2 ) 薬剤散布量は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、専用噴口を使うなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

### 農薬危害防止運動

6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

### その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ

<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/top/miyazaki>

日本植物防疫協会ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

農林水産消費安全技術センターホームページ

<http://www.acis.famic.go.jp/>

- 2 農薬の使用にあたっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。

- 3 発生量（程度）の区分

多	い	（高	い）	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い		（やや高い）		平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない		（やや低い）		平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない		（低	い）	やや少ないの外側10%の度数の入る幅
				（平年値は過去10年間の平均）

- 4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- ( 1 ) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- ( 2 ) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- ( 3 ) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- ( 4 ) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- ( 5 ) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

### お知らせ

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。ホームページアドレスは<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>です。

#### 【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 倉富

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127

E-mail: [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)